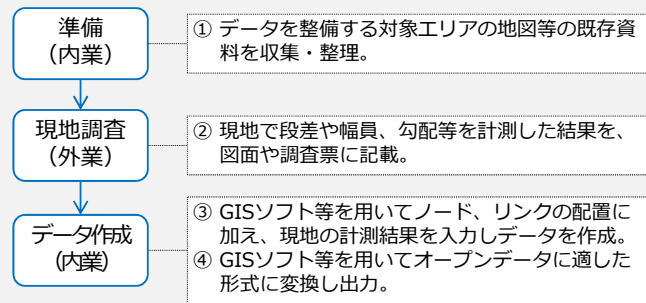


従来の作業方法

<作業内容>



<課題>

- 準備段階
 - 現地調査前に地図等の資料収集・整理を行う。
⇒データ作成前の準備に手間がかかる。
- 現地調査・データ作成段階
 - 現地調査の結果は、現地調査結果を持ち帰りデータ入力
⇒調査結果のデータへの反映に時間を要する。
- その他
 - データ作成には、GIS等の専用ソフトウェアを利用。
⇒データを作成できる者が限られる。

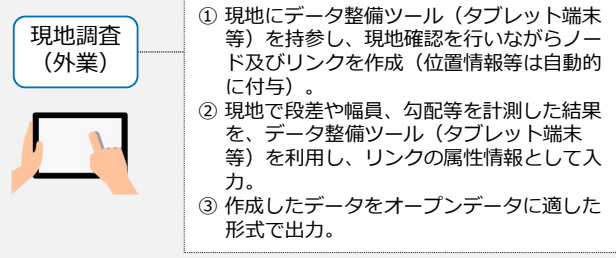


現地調査の様子
(左：幅員 右：段差)

データ整備ツールを利用した場合

<作業内容>

データ整備に関わる作業を、現地で実施可能。



<効果>

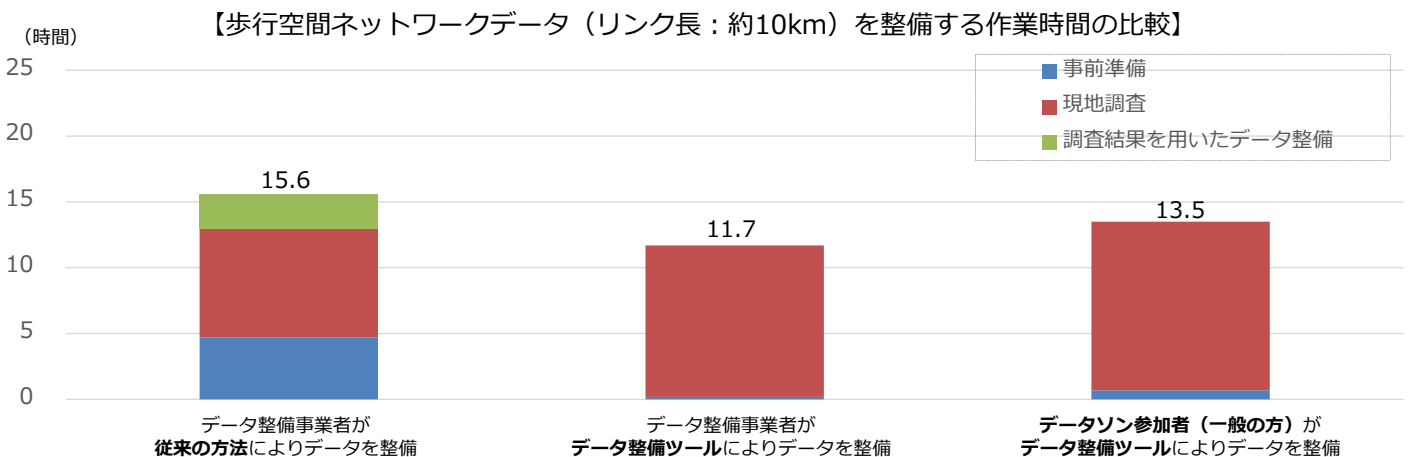
- 準備段階
 - タブレット端末上でデータ作成に必要な地図データを閲覧しながら調査できるため、**現地調査前に行う資料収集・整理の手間が軽減**。
- 現地調査・データ作成段階
 - 現地でタブレット端末を利用し、段差や幅員、勾配等のバリエーション情報を入力できるため、**事務所内でのデータ入力作業が軽減**され、**データ作成の時間が短縮**。
- その他
 - ノードやリンクデータの作成、段差や幅員、勾配等の属性情報の入力について、GIS等の専用ソフトウェアを利用せずタブレット上で容易に作業ができるため、**GIS等の専門的な知識がなくてもデータを作成可能**。
 - 段差や幅員、勾配等の属性情報を**選択肢式で入力**できるため、**一般の人でも容易にデータ入力・作成が可能**。

データ整備に要する時間の比較

- データ整備ツールを利用してデータを整備を実施した場合の作業時間を従来の方法と比較。
- また、データ整備ツールを利用する場合の、データ整備事業者とデータソン参加者（一般者）の作業時間も比較。

従来のデータ整備業者によるデータ整備との作業時間の比較

- ・ データ整備業者がデータ整備に要する作業時間は、**データ整備ツールを利用することにより約25%短縮**。
- ・ データ整備ツールを用いると、**データソン参加者（一般の方）の場合でも**、データ整備業者が従来の方法によりデータを整備する場合と比較して、**約13%短縮**。



※ データ整備業者の作業では、データチェックと修正も実施。データ整備ツールによる作業では、現地調査の際にデータ入力することを想定。
 ※ データソン参加者（一般の方）の作業時間は、H28.12.13に実施したデータソンにおける作業速度の平均値を基に想定。